

後悔しないためのはじめての「墓じまい」安心用語集

墓じまいを検討し始めると、普段使わない専門用語が多く出てきます。ご親族での話し合いや、お寺様とのご相談をスムーズに進め、トラブルを防ぐための「ものさし」としてご活用ください。

1. まずは知っておきたい「基礎知識」

- 墓じまい：撤去・解体し、更地にして墓地の管理者に返還すること。その後、遺骨を別の場所へ移す（改葬）までの一連の流れを指します。
- 改葬：「お墓の引っ越し」のこと。遺骨を別の墓地や納骨堂、散骨先などへ移すことを指します。
- 永代供養：お墓参りができる継承者がいない場合に代わって、寺院や霊園が遺骨を永続的に供養・管理してくれる仕組みです。

2. 【事前準備】スムーズに進めるための「必要書類」

- 受入証明書：新しい納骨先が決まっていることを証明する書類。これがないと役所の手続きが進められません。
- 埋蔵証明書：今のお墓に誰が眠っているかを、現在のお寺や霊園に証明してもらう書類です。

3. 【実践】お寺様と役所への「正式な手続き・儀式」

- 改葬許可証：遺骨を移動させるために自治体から発行してもらう公的書類。これがないと遺骨を動かすことは法律で禁じられています。
- 離壇（りだん）：これまでお世話になったお寺の檀家をやめること。感謝を込めて行う大切な区切りです。
- 離壇料：離壇する際、これまでお墓を守っていただいた感謝の気持ちとしてお寺へ包むお布施のことです。

4. 【浄土真宗の作法】（安芸門徒）

- 遷仏法要（せんぶつうよう）他宗派の「魂抜き」にあたります。阿弥陀様にお座りをしていただく、またはお墓を動かす旨をご報告する儀式です。
- 報恩感謝（ほうおんかんしゃ） 墓じまいは「亡くなった人の供養」ではなく、生かされていることへの「阿弥陀様・ご先祖様への感謝」の場と捉えます。
- 寝かせ線香（ねかせせんこう） 線香を立てず、折って横に寝かせて供える、

5. 【真言宗の作法】

- 閉眼供養（へいがんくよう）・魂抜き（たましいぬき） 石に宿っている仏様の「目」を閉じ、魂を抜き取って、元の石（物）に戻す儀式です。
- お性根抜き（おしょうねぬき） 「お墓に込められたお性根（魂）を抜く」という意味で、広島現場でもよく使われる言葉です。
- 撥遣式（はっけんしき） 「撥遣（はっけん）」とは、魂を天にお返しするという意味です。閉眼供養の正式な法要名として使われることがあります。

6. 見積書に出てくる可能性のある「墓石の部位」

- 棹石（さおいし）：お墓の最上部にある「南無阿弥陀仏」や「〇〇家之墓」と刻まれたメインの石のことです。
- 上台・中台・下台：棹石を支える台座部分です。通常、三段重ねになっています。
- 外柵・巻石：墓地の区画を囲っている石の柵のことです。
- 納骨室（カロート）：遺骨が納められているスペースです。墓じまいの際はここもすべて解体します。

7. 現場「工事・作業」の用語

- 更地返還：お墓を撤去した後、土を平らにして借りていた土地を元の状態に戻して返すこと。
- 難所作業：重機が入れない、階段が長い、山の上にある等の厳しい条件下での作業。手運びや小運搬車を駆使する必要があります。
- 産廃処理：取り壊したお墓の石を、法律に基づき「産業廃棄物」として適切に処分すること。

8. 遺骨の「取扱い・メンテナンス」

- 洗骨・乾燥：古いお墓から出したお骨を綺麗に洗い、乾燥させること。新しい納骨先へ移す前の大切なマナーです。
- 粉骨：遺骨をパウダー状にすること。海洋散骨や、スペースの限られた納骨堂へ納める際に行われます。

9. 遺骨の「新しい安らぎ方」の選択肢

- 海洋散骨：遺骨を粉末状にし、海へ還す供養。広島瀬戸内海で行う方も増えています。
- 手元供養：遺骨の一部を小さな骨壺やペンダントに入れ、自宅で供養すること。
- 樹木葬：墓石の代わりに樹木をシンボルとするお墓。跡継ぎがない方にも人気です。

10. 「費用の内訳」

- 基本工事費：石の撤去、基礎の解体、更地化、運搬費などを含んだベースの費用。

監修：株式会社工房飛龍
〒731-4231 広島市安芸区阿戸町 6046
TEL 082-856-1515